

丸山湿原群保全の会会報

(第 172 号)

発行日：2021 年 (R3) 11 月 17 日 編集／発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内

TEL/Fax0797-91-1788
090-1895-8061 (今住)

E-mail:maruyamashitugengun@gmail.com



COP26 が閉幕しました。「化石賞」常連国家の日本。ある意味「まだまだ努力が足りん」伸びしろのある国と激励されている？日本の授賞理由は？

大臣が「石炭火力発電など化石燃料の発電所は選択肢として残していきたい」と発言したことが理由のようです。地球温暖化問題を話し合う会議にこの主張はまずかった。

ただ、日本や世界各国は石炭火力に頼っているのが実情。その燃焼技術で世界トップレベルの環境技術を提供できるのも日本だそうで、一概に否定もできないのがこの問題。ただ、高い技術を石炭火力に新たに導入すると…依存期間が長くなるのも事実。電気はクリーンと簡単に言っていますが日本の電力は石炭・天然ガスが大きなウェイトを占めていることを忘れてはいけませんね。「原子力」という意見が出てきそうですが、コントロールできない「力」だと私は思います。やはり「水素」か？

市民レベルでエネルギーの使い方を真剣に考える時代です。でも車乗るし、エアコン使うし、旬でもないのに「イチゴ」食べたいし…。

実は真剣じゃないのかな？これこそ「化石賞」のような気がします。

(今住 11 月 16 日作成)

セミナー報告★10 月 16 日 (土)「宝塚西谷の森公園」多目的室と周辺 参加者 31 名

丸山湿原エコミュージアム推進協議会主催。宝塚西谷の森公園・宝塚市・阪神北県民局の共催で「外来生物」をテーマとしてセミナーを実施しました。

1 部 伊丹市昆虫館学芸員 野本康太さんによる「意外と身近な外来昆虫」。



野本さん

ようが…その中で生態系に影響を及ぼすもの、極端に農業被害を与える昆虫の話も。

「クビアカツヤカミキリ」はサクラやウメに甚大な被害をもたらすことで兵庫県が最も警戒している特定外来種です。その標本も見せていただきました。

それ「知らなんだ！」という内容がいっぱい。「えっ？」ヨコツナサシガメは外来種？オンブバッタと思ってたバッタも？セアカゴケグモは今や普通？という内容で、意外にも普段見ている昆虫が外国もしくは国内外来種という説明を、スライドを使ってわかりやすく説明していただきました。虫の嫌いな人には全て排除すべきものなのでし



持参された外来昆虫 標本

2部 近畿植物同好会 植村修二さんの「里山で問題になりそうな外来植物」。



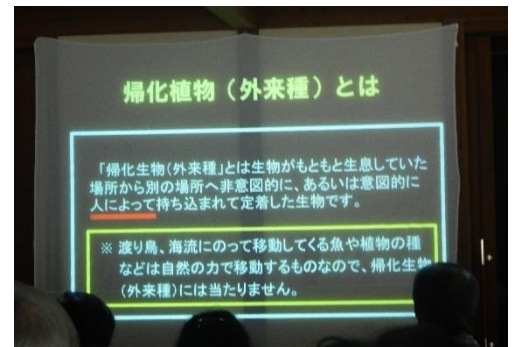
植村さん

植物も多いしね。「外来＝悪者」という構図も考えなければと気づかされました。しかし、**本来の生育場所にあるのが一番です。人が原因で定着していることも忘れずに。**こちら生態系への影響度合いが問題か。

午後は「西谷の森公園」周辺の外来種探索へ。外に出た途端あるわあるわ！悪い意味じゃないので間違わないでね。しかし、生えてる植物全ての「種名」を答えてくれるすごい人でした。ありがとうございました。

外来植物の日本第一人者といえる方。午後のフィールド観察もお願いしました。

身近な外来植物は「里山で問題になるのか？」こちらはたくさん知っているぞ。特定外来種も知っている！「オオキンケイギク」「オオカワチシャ」等々。これは身近な特定外来種。大問題？持論も含めお話いただきました。綺麗な花は難しい…。普通に共存している



まずは外来種とは何ぞやから

環境学習その後★西谷小学校3年「調べ学習」が進んでいるようです。そろそろ成果発表？

丸山湿原での環境学習で知ったことを深掘りする「調べ学習」が進んでいるようです。「内容に間違いがないかアドバイスをお願いします」と担任の先生のお招きで参加させていただきました。特に何もアドバイスできませんでしたが…。

コロナ対策？で早く普及したITC教育。1人1台のPC（タブレットにもなる）を持っているのには驚きました。（驚くほどのことではない？誰かさんが約束してたね。）



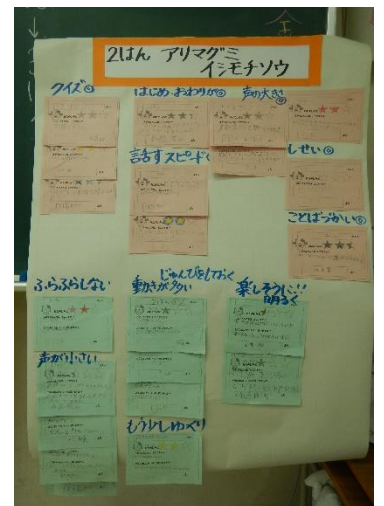
教室でのプレゼン練習 イモリ仮面付き



本番収録 テイク1 緊張中

生まれたときからインターネット社会で育った世代。PCを使うのもお手のもの。ネットからの情報をサクサク？とPPTのような専用ソフトに上げていました。それをもとに「大きさ」「重さ」「形」などを実際に感じてもらえるように工夫。段ボールあり、紙あり、シールあり…。

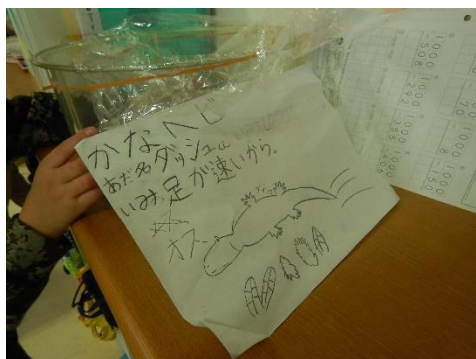
大型モニターをスライドにして前で発表。プレゼン形態。当初の計画では全校生？の前での発表会を考えておられたようですが、まだコロナの心配があるということで発表の様子を撮影。各教室でテレビ放映するよう



いい点・改善点を出し合う

です。（正確な情報ではありません…。）プレゼン能力、コミュニケーション能力が高まる有意義な取り組みです。

その中で「**メディアリテラシー**」の能力もしっかりつけて欲しいと思いました。キーワードを検索すればすぐ情報が得られる時代。何が正しい情報か、見極める力が大切です。まだまだ語彙力や読める漢字も少ない年齢。どう利用する。これは大人にも言えるか。しょっちゅう



カナヘビ「ダッシュ」君の説明

間違えてるし…。頑張ろっと！あと1点。**著作権の勉強も必要あり**と思いました。学校教育での利用はかなり緩く設定されているようですが、社会に出たときに他人の権利を侵害しないよう気を付けてほしいものです。まだ9～10歳。無垢な年齢です。全く気にしないのも当たり前。どう学んでいくか楽しみです。



死んだふりが上手な「ダッシュ」君

教室で飼われていた「丸山産カナヘビ」ダッシュ君がとても可愛かった。「死に真似」の上手なコでした。しかし、フィールド学習時に「修行明け」の「アカハライモリ」を飼育のため連れ帰ったはずが姿が見えず。担任の先生に聞くと、「いろいろ事情があり丸山に戻しました」とのこと。アカハライモリは逃げるのが得意。前回（2017年）飼育されたときも、水槽から何度も逃亡したようです。（会報126号参照）そんな事情なのでは？希少にはなっていますが、両生類の飼育としては超人気のアカハライモリ。「**アクアリウム**」ならぬ「**イモリウム**」という言葉まであるのには驚きです。ぜひ飼ってほしかったなと思う今日この頃です。実際見たり触ったりして感じる方が楽しいからね。ダッシュ君も頑張ってくれています。

定期活動★10月24日（日） 作業 観察 10名で活動

この時期の作業は微妙。そろそろ湿原内の草刈りに入りたいところですが、ウメバチソウを始め



集められた柴

とする秋の花の結実期にもなります。種の出来具合を見ての活動となります。ウメバチソウ（梅鉢草）はまだ開花中。センブリもまだ種になるには早い。ということで、入口平場付近の作業となりました。前回同様少しずつの作業。今回は刈り払い機、チェーンソーも少々使用。ま～簡単に言えば藪の手入れ。「もう少し」と毎回言いながら、なかなか平場の開通にはいたりません。イバラ類の繁茂が多く、作業効率も悪い。機械を使っていることもありますが、会話も少なく作業は黙々と。



顔を見せたヒメカンアオイ

藪を刈り取っていく中で下から小さな植物が顔を出すと嬉しくなります。

ヒメカンアオイ（姫寒葵）がひょっこり。

春にはシソバツナミソウも見つかりました。明るすぎると消える植物のようです。しかし藪状態では成長もできない。ギフチョウも来づらいに違いありません。「あと少し」。こればかり…。



結構頑張っています

湿原ではやはりウメバチソウがたくさん咲いていました。盛りを過ぎたとはいえ今年は少し遅くまで咲きそうです。第3湿原のセンブリ（干振）も数が増えてきました。ホソバリンドウ（細葉竜胆）も株数が増えてきたような気がします。

種の出来る時期とよく相談した刈り取



増えてきたセンブリとホソバリンドウ

盛りは過ぎたが まだまだ

りが重要、とつくづく思います。(生物多様の観点ね!) 11 月末ぐらいには刈り取り開始か? 場所場所で調整していくのがいいのでしょうか。

定期活動★11月13日(土) 定期基礎調査 10名で活動

目的	市内	市外	場所	時間	気温【水温】	電気伝導 (EC)	PH
丸山	64	47	入口	10:00	11.5℃		
ハイキング	24	37	第3湿原	10:37	【14.4℃】	44.6 μS/cm	6.8
散歩・登山	53	53	視点場	10:50	15.6℃	40.8 μS/cm	6.8
来場者数 278 計人 (竹筒ポスト人数)			第1湿原	10:56	【9.2℃】	39.0 μS/cm	6.8
			第2湿原	11:24	【9.3℃】	42.6 μS/cm	6.8

やっと晩秋らしくなってきました。この日の最低気温は「三田アメダス」で 1.2℃。標高の高い西谷が必ずしも低いとは限りませんが、この日出会った松茸狩り(権利者)の友人の話では車のフロントガラスがバシバシに凍る霜だったとか。(なんで私は知らないのでしょうか?) 少なくとも 2℃以下にはなっていたと考えられます。松茸は全く出ていないそうです。原木シイタケはよく出てます。(何が違う?) 天然キノコは本当に少ない年です。気温・雨量のバランスが崩れてきているのでしょうか。実感としてもありますが。

今年はスズメバチも異常に少なかった。イノシシも少ない。イノシシは豚コレラ(豚熱)の影響があるのか? 豚コレラの発生しているところではイノシシが相当数減少しているとか。実は宝塚・川西・猪名川でも感染した個体が見つかっています。今年度狩猟したイノシシは場所により販売できないそうです。自家消費は OK。感染拡大防止のため致し方なし! でもスズメバチの少なさは原因不明。話題にもなっていないのが不思議です。西谷だけ? どなたか科学的エビデンス(カッコイイ?) をご存知の方、情報をお待ちしています。

おっと本題。ウメバチソウは8割が終了。飾り雄蕊に子房の膨らみが目立ちました。乾燥が進み先が開いて、種が散布されるのを待つばかりとなりました。まだ開花中の花もあります。ただ雄蕊はほぼ見当たらず。(雄性先熟) 霜にも負けず美しい姿は健在です。まさしく有終の美。いよいよ冬景色到来です。



ウメバチソウの残り香



湿原内に裸地

今年の紅葉はやはりまいち。アツという間に終盤。風が吹けば冬木立か。それでも、タカノツメ(鷹の爪)、ヤマウルシ(山漆)などは美しく陽光に輝いていました。

気になるのはやはりシカ。シカと思われる食痕があちこちに。湿原内にはイノシシとは思えない裸地(ハゲ地)が。丸ハゲにはなっていないので数は少ないようですが、西谷地域でシカが確実に増えてきているようです。前号にも記載。どうなるのでしょうか? 狩猟でどれだけの頭数が減らせるのでしょうか? 獲ったら命は頂かないと。でもイノシシの方が需要は多いそうです。悩ましい。

狩猟期の豚熱まん延防止のお願い

兵庫県の複数の地域において、野生イノシシで豚熱陽性が確認されています。県内で狩猟される場合は、事前に兵庫県HPで豚熱感染確認区域を確認し、当該区域及び豚熱発生市町域において狩猟をされる際は、ウイルスのまん延防止対策の徹底をお願いします。

出猟前に必ず豚熱感染確認区域を確認下さい!

狩猟しようとする区域が、①発見場所から10km圏内(以下、豚熱感染確認区域)及び②豚熱感染イノシシが発見された市町域かどうか確認下さい。

①10km圏内
感染発生
発見市町

②市町内は全域
的感染確認区域を!

③イノシシを持ち
出さないで!

10km圏

詳細の区域図は下記から確認願います。

兵庫県ホームページ
狩猟者のみなさんへ兵庫県内の
豚熱感染確認区域等について
<https://web.pref.hyogo.lg.jp/h27/butanetu.html>

※別添図については、感染未確認の洲本市・南あわじ市を含め、県内全域で防疫措置を実施願います。

感染確認区域からイノシシを持ち出さないで下さい!

狩猟者向け豚熱(豚コレラ)注意書き



美しい紅葉 ヤマウルシ

次回活動日 11月28日(日) 12月11日(土) 26日(日)〈協働?〉 2022年1月8日(土)